

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 お待たせいたしました。定刻の時間となりましたので、ただいまより11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

毎回申し上げておりますが、発言される場合はお手元のマイクの下にありますシルバーのスイッチのボタンを押していただいて発言をお願いしたいと思います。発言が終わりましたなら再度ボタンを押してスイッチを切っていただきますようお願いいたします。

この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより、録音をいたしております。発言の内容を鮮明に録音するためにもマイクを使っての発言方よろしくご協力をお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業発表を行います。質問は、最初にこの事業発表項目についてお願いいたしたいと思います。その発表項目に係る質疑終了の後に3番目のフリーの質疑応答へと進行したいと思っております。なお、終了は午後2時30分を予定いたしておりますので、ご協力よろしくようお願い申し上げます。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは11月の記者発表ということで、記者の皆さん方には大変ご苦労さんでございます。

午前中に市政功勞の表彰をさせていただいたところでございまして、3名の皆さん方それぞれ市政の発展のためにご尽力をいただいた方ばかりでございまして、心からお礼を申し上げますながら表彰させていただいたところであります。

今もちょうど秋の褒章シーズンでありますけれども、人間というのは褒められますと非常に頑張るぞという気持ちがありますけれども、私の場合はなかなか何をしても褒められることはございませんが、しかし私はそれにめげずに頑張っていきたい、このように思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、座って、早速発表事項のほうからお話をさせていただきたいと思っております。

まず第1点、敦賀市のホームページのリニューアルでございまして。

私も平成13年にこのホームページを開設いたしまして情報提供を行っているところでございますけれども、いろいろと内容の充実も図ってきたわけでございますけれども、やはり日々いろんな技術、また見られる方も新鮮な形で見ただこうということで、全面的にリニューアルをさせていただきます。公開日は11月5日水曜日の0時でございまして、素早く分かりやすくということをもっと大幅に構成を変更いたしたところでございます。これは口で説明するよりも、明日の12時ですから、ぜひ見ていただいて、また評価をいただきたい、このように思っております。

次に、7月に大変悲しい事故があったわけでございますけれども、やはり突然の気象状況、変化をするという最近の環境でありまして、そういう中で危機管理能力向上に向けた講演会、前もお話をしておりましたけれども、このことの日程が決まりましたのでご報告をさせていただきます。

特に豪雨、また突風などを研究しております専門家の方をお招きいたしまして、やはりこういう条件の中でいろんなイベント等もしっかりと行っていかなくてはなりませんし、それぞれの町内単位、また地区単位でもやはりテントを使用する野外の行事というのは非常に多いわけでございまして、そういう皆さん方をお招きしていろんな心構えを知っていただくということで企画をさせていただいたところでございます。詳しい日程等につきましては、お手元に配付の資料のとおりでございますのでご報告を申し上げます。

次に、地域農産物直売整備事業についてであります。農産物直売所の実証販売ということでありまして、私も地産地消を推進いたしておりますし、また地域農業の活性化も図っていききたいというふうに思っております。そして何よりも今、食の安全といえますか、そういうものに非常に関心の高い時期でもございますので、市民の皆さん方に安全、安心な農産物、また加工品を提供するために栗野地区に農産物直売所の整備計画を図る目的で

この実証実験を行うものでございます。日時は11月7、8日の金、土でございます。詳細につきましてはお手元に配付のとりの資料でございますので、よろしくお願いを申し上げます。

次に、敦賀みなと歴史検定試験でございます。敦賀港みなと観光交流促進協議会のほうでは、ポーランド孤児、またユダヤ人難民の敦賀港の上陸時の歴史ロマンを初め、敦賀港、また鉄道の歴史をテーマといたしました歴史検定試験を昨年引き続き開催するものであります。

なお、この歴史検定試験の対策講座につきましては、申し込み者が大変少のうございまして、申し込み者の了解を得て中止をさせていただいたところでございます。

短大のほうで行うわけでございます。またたくさんの方に来ていただきたいというふうに思いますが、先着順で150名が一応定員になっております。12月7日の日曜日の午前10時から11時まででございます。あと詳細につきましては、これもお手元の資料のとおりでございます。

次に、私の訪米についてでございますけれども、命のビザ所有者のサムエル・マンスキーさんと面談、また前にちょっと発表できなかったんですけども、沿岸都市サミット2008というものに正式に招聘をいただきましたので、この会議にも参加する予定でございます。

昨年のちょうど今ごろでございましたけれども、ノエル・ブラウンさん、国連友の会の会長さんでありますけれども、越前市のほうにお越しいただきまして私とちょっと対談をさせていただいたところでございまして、その折に、要するに2008年の11月19、20日に沿岸都市のサミットがあると。日本で恐らく私だけだと思うんですけども、ぜひ参加したらどうだという話の打診はいただいていたんですけども、なかなか正式な文書が来なくて今の発表になってしまいましたが、やはり私どもを含めてそれぞれ自治体というのは環境問題にしっかり対応しなくてはならんという立場でもございますし、こういうところにお招きいただいて発言をする機会が得られることは非常に私としても誇りに思っているところでございまして、私どものいろんな経験などを踏まえてお話をさせていただきますし、近々では先ほどお話をしました7月の大変悲しい事故がございましたけれども、ああいう突風、気象状況の変化等についても現地で報告をさせていただきたいというふうに思っているところでございます。

日程はここに書いてございますように、マンスキーさんの面談もございまして、また今、大体アポイントとれましたけれども、シカゴのほうにもちょうどこの命のビザで帰られていらっしゃる方がいるということが分かってまいりましたので。ちょうど飛行機がシカゴのほうに最初到着するので、シカゴのほうで。ポーランド出身の方でレオ・メラメド氏という方がちょうどシカゴにお住まいになっているということが分かりましたので、その方にもお会いできるような状況になってまいりましたので、その方とも、ちょうど朝の8時に着けるといことでありますので、ボストンまでの移動の時間を見計らいましてアポイントをとって行きたいというふうに思っています。

かなりの投資家という方で、証券会社等にも非常に顔のきく実力者の方だというふうにもお聞きいたしております。その方と面談をし、11月17、18日はマンスキーさんと面談をし、またいろんな訪問、それと杉原千畝さんの記念委員会がありますので、その晚餐会と、また日本の領事の方にも連絡をとりまして、そういう皆さん方もお越しいただけるといふふうに聞いているところでございます。

その前に、11月9日にちょうど杉原幸子さんのお別れの会も東京でございまして、参列をさせていただいて、そういうご報告もしていきたいというふうに思っているところでございます。

23日には帰ってまいります。1週間ほど留守にしますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいというふうに思っています。

それと、6点目でございますけれども、ロシア、中国のポートセールスでございます。何度もお話をしておりますが、日本海横断航路開設のため極東ロシア及び中国東北部、吉林省への物流調査を行うのが目的でございます。今回は各地の企業を訪問し物流ニーズを

把握することと、現地におけます物流課題を抽出することを目的にこのポートセールス団を派遣いたします。団長は塚本副市長にお願いをして行っていただきたいというふうに思っております。8日間にわたる長丁場でございますけれども、しっかりと調査をまいります。

また、先だって私、姉妹都市訪問、そして韓国のほうにも船会社を訪問して、また増便等の要望に行ってきました。そして、ロシア・ナホトカ市も訪問いたしまして、ナホトカには私どもの姉妹都市の縁となりましたヴォストーチヌイ港というのがございます。これは敦賀港との姉妹港でございます、これがご縁で私ども姉妹都市になったんですけれども、そこの港の視察等を行ってまいりました。

非常にロシアも確かに今元気だと思います。1年前に行ったときとは、まちがきれいになっているんですね。大変失礼なんですけれども。昔は結構ごみも落ちていましたし、道路の舗装状況も悪かったですし、それとマーケットに行きましてもそう品数もなかったんですけれども、今回行きますと、道がかなりきれいになっている。ごみが落ちていない。常に清掃員が回って掃除をしている。それとまた、いろんなマーケットへ行きましても非常に品ぞろえがありまして、日本製品の、かなり割高ですけれども、日本のしょうゆとかマヨネーズとか食料品がかなり店頭と並んでおりまして、ロシアは今エネルギーの関係で非常に元気だということがうかがえたわけではありますが。また専門的には担当者がどういふものかというところも調査をしてくれていて、また報告する機会があるというふうに思っております。

そういうことで、今回は中国のほうを中心として、いろんな調査に行っていたかと思っております。

次に、いよいよ降雪シーズンが近くなってまいったところでございますけれども、20年度の除雪計画ということで、これはお手元に行っていますか。これは例年のとおりでございますが、なかなか今除雪を委託している会社も大変だということで、数社がなかなか参加できないということも報告いただいております。非常に除雪も大変な時期でありますし、今後とも市民の皆さん方に声かけをして、やはり自分たちである程度できるところは自分たちで雪をのけるという、そういうようなこともお手伝いをしてみんなで協力をして除雪に当たる、交通の障害にならないようにするというようなことに取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

私どもも作業機械等々、レンタルのような形もとりまして、少しでも除雪計画に滞りがないように万全を期してまいりたい、このように思っております。

次に、8番目でございます。名勝柴田氏庭園の寄附採納についてでございます。

これは経緯がございまして、なかなか柴田氏庭園の中の建物も老朽化してきていたんですけれども、なかなか普通の方の所有でありますから手が入れられなかったわけでございますけれども、それも柴田氏庭園につきましては地権者の方が長期にわたりまして敦賀にいらっしゃらなかつたこともございまして、指定範囲外の部分、これにつきましては昭和60年ころより次第に荒廃してきたところでございます。

それで、私ども市で管理ができますように寄附の交渉を重ねてまいったところでございますけれども、地権者の方の大変温かいご理解の中で、それじゃ市のほうへ寄附をしてあげようということをお申し出いただいたところでございます。大変本当にありがたいこととございまして、関係の皆さん方にお礼を申し上げたい、このように思っている次第でございます。

そこで、11月11日の3時半から市役所の特別応接室におきまして地権者の方がご出席をいただきまして寄附の贈呈をいただく予定になっておりますので、またその節には記者クラブの皆さん方にはよろしくお申し上げたい、このように思っております。

以上、私のほうからの発表でございます。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました8項目についてご質問を受けたく思います。

最初に幹事社のほうからお願いいたしたいと思っております。

【記者】 柴田氏庭園の件でお伺いしたいんですけれども、とりあえず建物の老朽化などが進んでいるということなんですが、寄附を受けた後の改修などの予定についてはいかがなんでしょうか。

【市長】 これは寄附をいただきますと敦賀市の財産になりますので、私どもとして大変傷んでいる部分を中心に、しっかり将来的に保存ができますように計画を立てて直していきたいなと思っています。

【記者】 具体的な計画はまだということですか。

【市長】 国の指定のところもございまして、国の文化庁と相談をして行っていきたいと思っております。

【記者】 運営のほうなんですけれども、たしか今、幾ばくかの金額を取っていると思うんですが、その運営方針についての変更は。

【教育長】 一部、国のほうの指定もいただいているということで、国の補助金半分、そして市が半分というような形で進めておりますが、基本的にはその形は変わらないと思うんです。今後も、新たに私ども取得しました報告のもとに、国の、また県の指導を受けながら計画をよりしっかりしたものにして、将来の敦賀市の大きな財産として我々も引き継いでいく。そういうような今つもりでおります。

【記者】 柴田氏庭園のことで市長にお聞きしたいんですけれども、長年、市としてはこうやって交渉を続けてきて、市のものになってきた、一応とりあえず寄附いただくということになったんですけれども、今後どういうふうを活用していこうとか、思いとか何かがあったら教えていただきたいと思うんですけれども。

【市長】 非常にあそこは歴史もありまして、すばらしい庭園だというふうに思っております。野坂山を借景としまして、野坂山の借景を残すためにいろいろ苦労も実はしたんですけれども、今までも大事に活用させていただきましたが、やはりこれからはしっかりと先ほども言いましたように修理をして保存できるようにして、私どもの一つのある部分では観光の一つの名勝にも十分なり得るところでございまして、そういうことも視野に入れますとともに、敦賀市の財産として大切に保存していくということでありますので、先ほども言いました観光の一助にもなり得るような施設をしていきたいなと思っています。

【記者】 確認なんですけれども、所有者というのは、柴田権右衛門さんと呼べばよろしいんでしょうか。済みません、テレビで発表するときに。

【教育長】 これは初期の方でございまして、できましてから、元禄初年にできておりますので、来年で約320年になろうかと思うんです。現在は柴田一男さんという方が、96歳の方でございまして、東京のほうにお住まいでございます。

この、いわゆる兄弟等の相続者が5人おられます。その5人のご同意を得られましたので、11日の日に一つの贈呈式を予定しております。5人の地権者といいますか相続者が、1名だけちょっと欠席のご連絡をいただいているんですが、残りの4名の方、また介添えの方と8名ぐらいがお越しになって3時半から行わせていただきます。

【記者】 そうしますと、その地権者の方というのは柴田権右衛門さんの親戚というか、子孫に当たるというふうに言っているということですね。

あともう一つなんですけれども、市長が言われたいろいろなところが傷んでいるという

のも、書院とか塀とか全般的に傷んでいるという感じなのでしょうか。

【市長】 これは現場に行っていただけると分かりますように、ブルーシートで覆ってあるところがありまして、本当に傷みがひどいものですから、そういうところはなるべく早く修理したいと思いますけれども。国のほうも今いろいろと、これは大事なものであるから一緒にやろうということをお願いしていますので、しっかりと打ち合わせをしてなるべく早くこれを直していきたいなと思います。もうひどいもんです。

【記者】 今の柴田氏庭園の確認させてください。

寄附を受けるのは、要するに赤と青で囲んであるこの部分全部ということですか。これを合わせて八千何平米ということですか。

【教育長】 この図の中で左側に囲ってありますところは、もう既に指定を受けているわけですね。この部分については。庭園ですね。

【記者】 青い部分ですね。

【教育長】 そうです。左側の部分。

【記者】 これは既に寄附を受けているということですか。

【教育長】 市の管理下にあるんです。既に名勝として国も認め、その管理を敦賀市に任ずということになっていて来ています。

ところが右側の部分については、あくまでも私有地でございまして、ここには手を加えることができなかったんです。そして先ほどの一男さんという方が時々お帰りになりまして、やはり懐かしいんだと思うんですが。ずっと住んでおられたんです、子どもころは。なかなかご同意を得られなかったんですが、今、娘さんとか周りの方も、もうそろそろ、おじいちゃん、市に譲ったらというようなことのお話し合いの中で、この右側の部分を全面的に市にご寄附いただくということになったわけです。

それで、今度はその部分も手を加えられるということになったわけです。ということは全体を市がもう管理できるということになりましたので。ただ、やはり重要文化財的などころもございまして、私どもだけでこれを勝手にさわっていくということではできませんので、国及び県の文化財としての扱い、こういうことのご指導をいただきながら、国の補助金をいただきながら直していくという形になっていく。

【記者】 そこなんですけれども、既に指定されているところは、市が委託されて管理運営しているわけだから所有権自体も移っていたんですか。所有権はまだ柴田さんのものだったわけですね。

【教育委員会事務局長】 今、教育長申しましたように、既に指定を受けています2,340.56平米、また追加して受けました6,717.14平米、これすべてを今回市のほうに寄附をいただけるということになります。

【記者】 黄色い部分で緊急改善箇所、これは昨年度からやっているところですね。今年度増やしたところではなくて、ということよろしいですか。——分かりました。ありがとうございます。

【記者】 柴田氏庭園の追加で。

まず1点が、もう一回確認なんです、今の地権者はこの柴田一男さんお一人ということよろしいのでしょうか。それとも……。

【教育長】 全部で5名おられます。ご兄弟の方と。

【記者】 すべてが子孫の方。柴田さんの全部子孫の方、全員。

【教育長】 そうです。その長男さんが一男さんでございまして、いわゆる兄弟の方がほか2名と、そして女性で妹さんというんですか、そういう直系の今流れの中で横の関係のつながりですね。その方が5名おられるんです。

【記者】 それともう1点。昨年度、緊急補修とかもされてはいるんですけども、寄附を受けて市の管理になることでの管理のしやすさというか、メリットの部分というのをもう少し教えていただきたいんですけども。

【市長】 これはあくまでも市のもの、市民の皆さんのものですから、市として議会にお願いしなくてはならないでしょうけれども、修理するに当たっても私どもの判断、要するに市だけの判断でできますので。今までですと、やっぱり所有者の方に相談もしなくてはなりませんし、いろんな面で時間がかかったりいたしましたけれども、そのあたりは、そういう面ではいろんな面でスピーディに対応ができるのかなというふうに思います。

また、私ども市の財産になることによって、柴田さん初め関係の皆さん方も、私どももしっかりと末永く保存できるようにすることをお約束していますので、安心していただけるのかなと思っています。

【記者】 先週にロシアののほうに行かれてというお話があったんですが、具体的にどんな成果とか、具体的にロシアで何をされて、得てきた成果とかというのは何かあったんでしょうか。

【市長】 そうですね。ロシアももう本当に、ほぼ1日移動時間が結構かかるものですから。結局、韓国のソウルに1泊、着いて船会社2社訪問して、次の早朝に発っていったんですけども、ナホトカ市に着きましたのは夜といいますか夕方に入ったもんですから。ともかく今回は姉妹都市の訪問ということで、向こうの市長、また議長等とのいろんな懇談、また、その次の日はヴォストーチヌイ港とナホトカ港の視察、また音楽学校の視察をし、夜はまた懇談会をして、もう次の朝はまた帰ったもんですから。姉妹都市としての絆といいますか、26年を迎えましたけれども、そういう姉妹都市としての絆の確認といいますか、相互訪問でそういうことを今行っておりますが、そういうところと、ロシアのこの1年でも先ほど言いましたような変貌ぶりというのは肌で感じてまいりましたので、経済的にはいろんな面で、これからしっかりとロシアとの連携を取るということは大事なということを確認してきたのが成果じゃないかなと思っています。

【記者】 さっきの柴田氏庭園です。

地権者さんと交渉を始めたのはいつですか。それと、これまで直してきたところはどこですか。それで、今後直していきたいところはどこですか。

【教育委員会事務局長】 まず、今まで補修をしましたところにつきましてまず申し上げたいと思います。通用口、それから土蔵、それから中門、それらにつきましては倒壊のおそれがあるということで緊急を要しまして、国の補助をいただきまして19年度に改修をしております。それが1点でございます。

それから交渉の過程につきましては、平成15年8月から屋敷地全体を市に寄附することにつきましての交渉を始めております。

以上でございます。

【記者】 今後、直していきたい部分というのはあるんですか。

【教育委員会事務局長】 今後につきましては、ブルーシートがかぶっております居宅部分、それから土蔵の建てかえ等ございますので、計画的に国の補助をいただきながら直していきたいというふうに思っております。

【記者】 栗野の農産物の直売会というのは、実証実験という言葉がついていますけれども、これはどんなことの実験というか、何を実証するのでしょうか。

【副市長】 私のほうから申し上げますけれども、先月の10月26日に市場で朝市をやったんですね。そのときやっぱり初めての試みでしたけれども数千人の方々がおいでいただいた。非常に活性化という面から大いに成功したのかなというふうに思っています。

それから、この砂流の件につきましては、地産地消という観点から農協の今やっておりますのが非常ににぎわっているというところから、第2のそういう場所を移して砂流付近でそういう催し物があったときにどれぐらいの人がお越しいただけるかと。そういうような流れを一回調査したいということで行うものです。

【記者】 それは、その成果が出た後は。

【副市長】 成果が出た後には、そこに定常的に施設をつくってやっていきたいというふうに思っています。いわゆる第2のファーマーズマーケットみたいな形になればいいなというふうに思っています。ただ地産地消ということで、とれる量も敦賀の農家というところでは限りがあるわけです。そういう中でどれぐらいのものが出てくるか。そして、出てきたものをどれぐらいの人たちがそれをお買い求めいただけるかということも含めた実験です。

【記者】 そのファーマーズマーケットというのは、土日とかだけじゃなくて平日もそこで営業するようなものをお考えなんですか。

【副市長】 今やられているのは農協が土日にやっているわけなんですけれども、主にそういう形になると思います。

【記者】 命のビザの所有者との面談なんですけど、ちょっと資料がこちらには配付されていないのでスケジュールを教えてくださいたいのと、これも結構長い間、懸案で市長もビザに関して注意とか注目されてこられた部分だと思うんですけど、今回、直接お会いになることに向けての思いみたいなものをちょっと教えていただければと思います。

【市長】 日程的には、16日に日本を出発しまして11月23日に帰ってまいります。そこで、ちょうど移動日、また時差の関係もございまして、17日にはマンスキーさんにお会いできるわけでありまして、私もテレビの番組でマンスキーさんの顔は拝見したことはありますけれども、やはり60年以上前にああいう戦争のさなかを本当に経験、体験をされて、シベリア鉄道も非常に長い、恐らく1週間以上列車に揺られ、そして船に乗って命からがらといますか日本に到着された。敦賀の港に入ったときにほっとしたという本当の体験を持つ方にお会いできるというのは非常に光栄だというふうに思っておりますし、ぜひ生の声。私、英語は余り分かりませんので生といいますが通訳さんを通す声にはなってしまいますけれども、お話をお伺いできるというのは大変地元の市長としてうれしく思っておりますし、しっかりとその声を聞かせていただき、また今回取材もさせていただきますので、その映像等をムゼウムにお越しいただいた皆さん方に見ただけなら大変ありがたいなというふうに思います。

そういう意味で、命の大切さ等をあのムゼウムの中から十分発信をしていきたいなとい

う思いであります。

【記者】 さっきおっしゃったメラメドさんではないんですか。

【市長】 この方も、ちょうどそのビザで日本に亡命して敦賀に入った方だというふうに伺っております。

【記者】 お二人お会いになって来られる。

【市長】 そうですね。ちょうどこの方、アポイント、連絡が取れましたので。たまたまシカゴに在住されているということが分かりましたので、会わせていただきたいと思いますっております。

【記者】 お二方とも17日にお会いになる予定ですか。スケジュールは。

【市長】 16日にレオ・メラメドさんとシカゴ市内でお会いする予定でありまして、マンスキーさんはボストンでありますので、次の日、ボストンに移動してマンスキーさんにお会いをする予定であります。

【記者】 分かりました。

【市長】 17、18日がボストンにちょうど私がいる時間になります。

【記者】 柴田氏庭園のことでちょっと1点あるんですけども。

所有者の方は、これを寄附するに当たって何か、どういうふうに管理してほしいとか、そういうご要望、コメント等があったら教えていただきたいのですが。

【教育長】 先ほども申し上げましたが、ここに住んでおられました。またお母さんもこのお家に住んでおられたという思い出が強うございまして、夏にはいつも帰省されておりました。お一人で来られて、数日この柴田氏庭園で過ごしてお帰りになるということで、私も何度かお会いしてお願いをしたんですが、敦賀の地の思いというものやはり相当強うございました。今後、はっきりとおっしゃいましたことは、「柴田氏庭園」という名前はぜひ残していただきたいんだと。そういうことはおっしゃいました。

ちょっと先ほど私、相続者のところで言い方を間違えたと思っておりますので、このように言おうと思って。長男さん、長女さん、そして次男さんと3人のお子さんがおられたんですが、この次男さんが亡くなられておまして、この次男さんの子どもさんが3人おられるんです。ということで、5人の地権者といいますか相続者です。ですからあとの3人は、横一文字と言いましたけれども、1段下になるわけです。柴田一男さんが長男で、そして長女の方がおられて、次男の方もおられたんですが亡くなられて、この次男の方の子どもさん3人が相続権があるということで計5人の方。そのお子さんの1人が今度はお見えになりません。4人の地権者の方がお越しいただくということです。それでよろしゅうございますか。

【広報広聴課長】 発表項目8項目につきまして、ほかにご質問ございませんか。

【記者】 危機管理能力向上に向けた講演会というのは専門家の方が講演されると思うんですが、これとは別に原因調査に向けた実験、これについては国等の間でどのようなお話になっていきますか。

【市長】 私どもも前の記者発表でも申し上げましたとおり、なかなか一地方自治体では

そういうことができないのでということをお願いしておるんですけども、なかなかその返事で、じゃ国でそういう一遍実験をしようというお話は聞いておりません。ただ警察当局がいろいろと調べているというふうに思いますので、今はやはり当局にお任せをするしかないかなと。原因ということでありまして。その結果が出て、またどういうことに具体的に動くかということは今決めざるを得ないのかなというふうに思っています。

要するにガストフロントが来て、たまたまそこに入り口が向いていて、そこに、私ども素人から判断すれば突風がどーんと来たやつをたまたまその入り口になっていたところにもろに風が浮いて、重さ4.5トンの押さえよりも強い浮力が発生したから飛んだということが、一般的に考えればそれが原因じゃないかなと素人なりに判断しますけれども、それを具体的に科学的にといいますと、恐らく実際、風洞実験等をやらなくてはできないことだと思いますので。先ほど言いましたように、なかなか国のほうも、それをしましょうということはいたではおりませんし。お願いはしておりますけれども、いただいておりますし、警察、先ほど言いましたように当局のほうでそのことについて今調べておられるというふうに思いますので、その結果待ちの状況です。

【記者】 そうしたら現実的には、もう実験というより、そのかわりではないんですけども、こういう講演会で、手打ちじゃないですけども、それで実験しないのかなと。

【市長】 ある程度専門家の皆さん方、当然、今度お越しになって、敦賀の状況、情報、たくさん情報入っていますので、そういうものを分析しながら今の気象状況等について、またその対策、そういうものをお話をさせていただいて関係者の皆さん方にまた聞いていただき、これから野外でいろんなイベントをするときの安全対策に生かしていく。それが一つの教訓だというふうに思いますので、そういうことを中心に今回講座を開いていきたいと思っています。

【記者】 市長としては、あくまで実験というのは、警察の捜査結果もありますけれども……。

【市長】 今でもしてほしいんですけども、お願いしていますけれども返事がないものですから。一度やってくださいということをお願いしていますけれども、返事がないもので今どうしようもない状況なんです。

【記者】 そうしたら、講演会でお茶を濁すつもりではないと。

【市長】 そうです。講演会は講演会で、要するに教訓ですよ。これからもイベントは続きますし、必ずそういう時期来ますので、一つの教訓としてやはり生かす場にしたいですし、原因究明については警察のいろんな調べもありますし、またそういう関係機関がちゃんとやっていただくことは大事だと思っています。別にお茶を濁すようなつもりは全くございません。

【広報広聴課長】 発表項目につきまして、ほかにございませんでしょうか。

ないようですので、一応これにて発表項目につきまして質疑応答は終わりました、次第の3、フリーの質疑応答に入りたいと思います。

最初に幹事社さん、ありましたらお願いいたしたいと思います。

【記者】 先日、環境省が極曲のごみの件に関して仲裁に乗り出すという話があったと思うんですが、それに関してこちらのほうとしての感想及び、受けて実際にもうリアクションがあったのかどうか。まだ話が出たばかりなので余りないとは思いますが。及び見通しがあれば。

【市長】 リアクションについては、まだ出たばかりで今のところはありませんが、やはり国として、環境省としてはっきりした見解を示していただいたということは大変ありがたいことですし、私ども敦賀市としては歓迎すべきことだというふうに思っております。今後、環境省の指導に基づいて、やはり私どもも同じ自治体でありますので、ごみを搬出した自治体もいろんなそのときの社会情勢、捨てるところがどこにもないという中でやむを得ず持ってきたことでもありましょうし。しかし、排出責任は出したところにあるよというはっきりした見解が示されましたので、ぜひご協力をいただいて、多少時間がかかっても結構でございますのでお納めをいただきたいなという気持ちでいっぱいです。

【記者】 今後の見通しについては、まだ明確なものは。

【市長】 そうですね。まだはっきりとした見通しについては出ておりませんが、今後、18ある都道府県が関連していますが、都道府県に連絡して、そしてその都道府県から——府県ですかね。都は入らなかったかもしれませんが。そこに通達が行って、いろいろ動きが出てまいると思いますので、しばらくその状況を見ていきたいなと思います。

【記者】 ということは、敦賀市としてまた改めてアクションを起こすというわけではなく、とりあえず今回の環境省の仲裁を受けて各団体がどう動いてくれるかというのを見る。

【市長】 そうです。私どもは従来どおり請求させていただいておりますので、そのことに対しては引き続きやっていきますが、やはり環境省の指導の中でどのように対応していただけるかということ注視していきたいなと思います。

【記者】 ニューサンピア敦賀のことでお聞きしたいんですけども、11月1日から再開をしたんですけども、まずそのとき、市長もエキシビションを見られたと思います。そのときの思いと、具体的に何か支援策とかというのはもう考えられているのか。その2つお願いします。

【市長】 本当にもし入札者がなかったり、またスケート場を残さないという方が落札を仮にされておりますとああいう再開はなかったわけでありまして、多くのスケートファン、また一般の市民の皆様方も、実際スケートをしない市民の皆様さん方もよかったねということ言っていておられますので、私も現場へ、実はスケートをリンクを見たのは私は久しぶりでありました。子どもが小さいときには一緒に行ってよく滑ったりしたんですけども、なかなか子どもが大きくなってくると行く機会もなく、私なんか行って滑ると氷を割ってしまうという大変ご迷惑をかけることが十分考えられますので、自分自身は滑らないように。また私どもの仕事は滑るというのは非常に縁起が悪いことでもあります。それは冗談としまして、久しぶりに見たんですけども、やはりいいものですし、きりりと、当然寒いですから、引き締まった空気の中で。またプロの方がスケートティング、私もテレビではいろんなのを見ましたけれども、やはり生で見るとまた非常にいいものでしたので、残って本当によかったかなという安堵感が一番強うございましたし、支援につきましては、もう何度も申し上げておりますけれども、事業者の方とも相談しますが、よくちまたでは、また知らない方がブログで免除を明言したと書いてあって、私はした覚えがないんですけども、そういうことはできません。だから、スケートリンクを残すということはまず条件であったので、その条件はまずクリアできましたので、スケート場なり、またそれに関連する駐車場を含めての施設の中の10年ぐらいの固定資産税分ぐらいはやはり応援をしてあげないと。といいますのは、これからスケート場もまだ恐らくもう20年たっていますので、修繕部分がこれから出てくるというふうに思いますので、その部分ぐらいは最低市としては応援してあげなくてはならんと思います。これはまた事業者の方

がいかに、例えば観客席を増やすという話等があるかもしれませんので、そのあたり十分相談をして、市としてできる範囲の中で、また議会とも相談しなくてはなりませんので、できる範囲の中で、スケートリンクを残す方には応援しますよと。私、応援しますという明言はしていますので。残すと言っていて、いや、それは私知りませんということは口が裂けても言えませんし、しっかり応援はしていきたいと思っています。

具体的には、いろいろ相談をしながらいきたいなと思っています。議会とも相談をしながら。

【記者】 そうしましたら今年度中ぐらいに話とかやって、今度、来年度になってからその予算をつけるようなイメージなんですか。

【市長】 そうですね。今直ちに、まだ会社の方にお聞きしますと、10月6日に落札をし、本来ですと12月までになったんですけれども、それを何とか継続をということで会社のほうも無理やり日程を詰めて1日にオープンしたものですから、なかなかまだ会社の中がばたばたということもございまして、そういう時間も今のところありませんので、支援については恐らくもう少し時間をかけて当初ぐらいになるんじゃないかなとは思っています。

【広報広聴課長】 それでは、ほかの報道各社、質問ございましたらお願いしたいと思えます。

【記者】 資料を、公的な形でアメリカとかロシアへ行かれるので、資料を我々に事前に配付してほしかったなど。

【市長】 日程のやつは配ってないのかな。

【記者】 今日が入ってないでしょう。それを見ながら、公的な質問をちょっとしたかったので。ポートセールスも含めて、また。

【市長】 何も隠すようなことは一切ありません。もう飛行機やらみんな押さえてやっているんで、その日はもう変えられませんので。

【記者】 4、5、6ぐらいがちょっと入ってなかったんで。これは質問じゃなくて。

【市長】 それは大事なことですから。

【記者】 丁寧に話を聞いて戻すにも、ちょっとベースが。

【市長】 私は持っているんですけれども。

【広報広聴課長】 今の資料は、この後で皆さんに配付させていただきますので、それでご了解いただきたいと思えます。

【市長】 16日に成田を出てシカゴに入ってというやつで、大体タイムスケジュールは決まったのね。大体何時ごろにこの人に会えるとか、大体決まってきましたので。

最後は、さっき言いませんでしたけれども、配りますけれども、原子力発電所もフロリダ、先ほどの沿岸サミットのある市から近いところにありますので、アメリカの原子力事情というものをちょっと、せっかく行きますので、滅多に行かんもんですから。私もアメリカは10年ぶりぐらいになりますので、一度アメリカも少し。前に行ったときは原子力事情も変わったようでありますので、それも含めて短期間の間に精力的に動き回ってきたいなと思っております。

また、この報告については、詳しくまた報告させていただきますけれども。

【記者】 もんじゅについてお伺いします。この間、いろいろ機構のほうも発表しましたし、保安院からもありましたけれども、けん責問題、まだ引きずっていて、新たに、過去にもあったんだけど報告してなかったみたいな事例が明らかになってきているわけです。最終試験も大分遅れが見えていると。ただ2月の運転再開ということは崩していないと。この間のもんじゅが実際に本当に動くのかと言われてはいますけれども、2月運転大丈夫かと。市長はどのようにご覧になっていて、原子力機構に対して要求したいことってありませんか。

【市長】 私どもはいつも言うておりますけれども、安全面に対しては少々時間がかかってもやむを得んと。あわてて運転を再開して、また大きなトラブルになるようではこれはもう大変なことになりますので、いろいろ調査をしながらそういう過程で不具合が出たり、今回また少し遅れるという報道も出ておりますけれども。私は、遅れること自体はそう気にはしていませんが、やはり計画をしっかり立てればその計画のように動いていくのが本来なんです、それも確かに見えないところのいろんなところの検査によってそれが見つかれば、見つかったようにそれをしっかり直していくということについては、逆に言えば、それをもし仮に昔のようなことがあって、これは出すと具合が悪いからというようなことがあれば、これが一番大変なんですね。それを分かったことについては、こうでしたから遅れますということを出す方がいいことじゃないかなと。

安全に対しては、私は幾ら時間がかかってもいいですし、本当に動いたときにしっかりと動いていく、安定的な運転がしていけるものにしてから私は動いてくればいいというふうに思っていますので、とにかく安全に対しては少々時間がかかろうともしっかりとやっつけてほしいという気持ちです。

【記者】 いろんな計画が、自分たちで公表した計画がころころと変わっていくというこの状況ですね。国策に任せても大丈夫なのかという声もありますけれども、市長は大丈夫だと思いますか。

【市長】 計画、予定は未定であり決定でないということもありますように、あくまでも立ててそれに従っていく。またこれでふぐあいが出れば直すのが本来ですから、だからこれが一昔、かなり昔でしたら、この分はもう出さんでもいいやないか、遅れるからというようなことに今なっていないのが、逆に言えば安全に対してはしっかりとやっているという評価にもなりますし、ころころ変わると言われますとそうかもしれませんけれども、安全のために私は変わってもいいというふうに思っております。安全面に対して、よりしっかりと取り組む、気付いたことはすぐ直していくことの姿勢というのは大事だと思っております。最終的にこれで大丈夫ということになれば、また私どもにどうしようという相談があるというふうに思っていますので、そこで運転についてやるかやらんかという判断を私どもはすればいいわけですから。

【記者】 関連してなんですけれども、市長がおっしゃるようにしっかりとやっついていけばいいんですけども、この前延ばしてからまだ2カ月ですよ。その間に2つ問題が起きている。検出器の誤警報、もう一つはダクトの腐食。こういう形で機構自身がちゃんとやりますと言っていることすら全然ちゃんとできていない。これはしっかりとやっついていけるのではちょっと意味合いが違うのではないかなと思っております、検出器だってそんなんですけれども、要は機構は5月の時点でこの検出器は大丈夫だと言っているんですよ。だけど、この検出器が誤警報を起こして、後々調べてみたらやっぱり不具合だった。

これは、やっぱり広い目で見れば機構自身の組織というか体制というか、本当にちゃんとやっているのかどうか、そういうところが結局問われているんじゃないかと思っております、そこら辺についてのお考えを。延び延びになっているということも含めてのお

考えを聞きたいんですけども。

【市長】 おっしゃるように、確かに計画時、ここは大丈夫だろうという想定の中で前へ進んだときにまた不具合が出てきた。5月から半年も経っていない時期でありますので、見方によっては何をしているんだという言い方もできるかもしれませんが、それはそれとしての見方であり、そういう見方をされる方もたくさんいらっしゃるというふうに思っております。現に県の立場の中でもそういうことで厳しく注意もされておりますし、私どもにすれば何もそういうことに対して、私ちようどあのときいなかったものですから、木村部長が出て、これでは本当に課題が多いんじゃないかということで、これは私の意見として申し上げたところでございまして、そういうことをしっかり受け止めて今後どうやっていくかということが私は大事だなというふうに思っております。

今後、機構としてどのような形で対応し、また、こういうふうにやりますといういろいろなことも報告があるというふうに存じますので、そういうことを見極めていきたいんですけども、先ほどの話に戻りますが、安全のためなら少々時間がかかってもいいというのが私の思いです。

【記者】 サンピアの話に戻るんですけども、10年の固定資産税分ぐらいはということだったんですけども、これは大体どれぐらいの金額になるんですか。

【市長】 まだ、ざっとですけども、大体年間800万円ぐらいにはなるのかなというふうに思っています。あそこ大体全部いただきますと2,000万円ちょっと出るんです。あそこの全部入れると2,000万円ちょっと出るぐらいになりますから。スケート場と駐車場、まだ今まではうちはゼロだったのが、仮にそれを応援しても1,200万ぐらいは市に今度新しく税収が入ってくる計算になります。

【記者】 とすると、10年分ぐらいというふうな数字だと8,000万円ぐらい、補助としては。それは単年度で出されるんですか、それとも継続的に分割。

【市長】 これはまた事業者の方の相談で、それは単年度でもいいし分割でもいいですし。これもまだはっきり決まってはいないものですから。

【記者】 あくまで目安としてということですね。

【市長】 そうですね。

【記者】 これ以上もあり得るということですか。当然。

【市長】 できる限り出したくないのが私どもの立場ですし、会社とすればできる限り応援してほしいというような気持ちであります。そこはいろいろ相談もしながら。ただ、あそこは宿泊施設も料理部門もありますが、そこで逆に利益を上げていただければいいのであって、そうなると会社ですから、会社で、よしスケート場こうやろう、ああいうことで使っていただければいいんです。利益を上げることは幾らでも上げていただければいいですが、ただやっぱり20年経ったスケート場を運営していくというのは決して楽なことではないことはだれが考えても分かることであります。

【教育委員会事務局長】 すいません。先ほど柴田氏庭園の交渉はいつごろからされていたのかというご質問があったかと思えます。私のほうで平成15年8月ごろというふうにお答えをさせていただきましたが、この時期につきましては寄附の話が煮詰まってきたころの時期でございまして、昭和60年ごろ、荒廃が進んだころから交渉を始めておりましたので、訂正をさせていただきます。失礼しました。

【広報広聴課長】 それでは予定の2時半になりましたので、これで11月市長定例記者会見を終了させていただきます。

本日はどうもお疲れさまでございました。

午後14時30分 終了